

令和7年度第1回霧島市公立学校等あり方検討委員会 会議内容

- 1 日 時 令和7年7月31日（木）午後2時00分から午後3時50分まで
- 2 場 所 霧島市国分シビックセンター行政庁舎本館3階【庁議室】
- 3 出席者 委員15人 山神委員、今吉委員、川井田委員、塚田委員、山田委員、林委員、
富永委員、阿多石委員、吉満委員、小野委員、上之園委員、山下委員、有村委員、河瀬委員、新田委員
事務局 教育長、教育部長、教育総務課長、学校教育課長、溝辺総合支所長、横川総合支所長、牧園総合支所長、霧島総合支所長、福山総合支所長、学校教育課長補佐、教育政策グループ長、学事グループ長、安全・保健体育G長
- 4 公開・非公開の別 一部公開
- 5 傍聴者数 2人（うち報道1社）
- 6 協議事項 霧島市の現状について
- 7 主な質疑
 - Q 資料P5に休校の理由として「校区外への学校の通学希望」とあるが、希望した理由は何か。
 - A 児童クラブがなく放課後の預かりができないことや、児童クラブが近くにあっても単独でのスポーツ少年団の組織が難しいことも影響したものと分析している。
 - Q 児童クラブがないのでタクシーで送迎されてくる実態がある。金銭的な補助はないか。
 - A 児童クラブは子育て支援課が所管し、運営に対して補助金を交付している。児童クラブによっては車を出しているところもあるが、タクシーでの送迎は初めて聞いたので、所管課に伝達したい。
 - Q 2年間児童がいなければ閉校となると聞いたが事実か。
 - A そのようなルールはない。幼稚園の場合は園児が5人以下の場合一旦休園し、その後入園の申込がない場合は地域に説明した後に廃園としている。
 - Q 児童が1人でもいれば再開するのか。
 - A 児童1人が適正と言えるか、今後どうすべきかを議論するのがこの委員会であり、今後検討していければと思う。
 - Q P6の地図中、適正規模校の今後の推移はどうか。
 - A 児童生徒数が増加・微増するような数値はない。

Q 児童生徒数の推移のグラフは、特認校生がそのまま特認校に残るという前提で作成したものか。

A そのとおり。

Q 自校生0人で特認生がいる場合運営できるか。

A 自校生0人の時点で特認生を募集できない。

Q 本市独自のルールか、国のルールか。

A 本市独自のルールである。

Q 特認生数の推移はどうか。

A 現状維持しようとする学校、立地等の関係で維持が難しい学校がある。苦慮しつつ、ニーズの高まりにより保留している学校もある。

Q 複式学級のメリットは何か。

A ICTを活用して他校と繋がる取組は、複式を中心に展開している。これまでデメリットと考えていた部分が、地域を愛する気持ちや細やかな教育と融合している例がある。一方で、非常に苦慮している学校があるのも事実であり、指導主事の細やかな支援により教育の充実を図っている。

Q 特認校を選択する理由は何か。

A 自然豊かな環境、小集団での細やかな教育を期待するほか、大集団に対する苦手意識を持った児童等もいる。

Q 自校生0人で廃校の場合、大規模校になじめない児童の行くところがなくなるのは問題ではないか。何らかの手立てを考えないと、特認生が行ける範囲が狭まってくると保護者も大変なので、行き場を制限することがないよう配慮が必要である。

A 特認校の意味は認識しており、特認校がなくなることはありえないと思っている。仮にまとめるとしても、残すべきということを含めて意見をいただきたい。何かに定めてあるものではなく、そういう運用をしているもので、今後のあり方もこれからの意見で考えていきたい。

Q 牧園地区からの陳情書は今後のあり方にどう関係するか。

A スクールバスの配備や更新など、交通手段の確保が主な部分である。民間のバスが減便となり、時間帯が学校と合わない状況である。議会で審議中であり、議論を踏まえながら今後対応することになると思う。

Q 福山は市の有料バスの運行で対応しており、国の通知により午後2便が1便となり、低学年は待ち時間が長くなると聞いた。現在は市の有償運送の関係で改善できているということだが、午後1便に一本化する話を聞いているが、そういう規定はないということか。

A 現在午後2便で運行しており、現状を踏まえながら現在の運行を継続することを考えている。学校が長期の休みとなる時期は夕方の1便は運行していない。午後については、学校等と調整しながら現在の2便を確保しながら進めている。

Q 市議会からの「再編成も含めて検討すること」という提言から約1年経つが、検討されたか。

A 少しずつ地域から声が上がっている状況の中で、今後どのような方針とするかはこの委員会の中で色々と議論をしていただきたい。様々な意見がある中でこの委員会を設置して検討していくこととしており、案ではなくても考え方程度であれば示せるかもしれない。

Q 今年からコミュニティ・スクールが始まり、学校運営協議会委員として関わり、学校のまちづくりについて話し合っている。住民からの意見もあるので、次回の会議ではそれを集約してほしい。

A 各学校の学校運営協議会からの意見についても参考とできるものを提示したい。

Q 教育委員会で大規模校の児童が進学する中学校の仕分けはできないのか。

A 現状では自治会ごとに校区を指定している。ルールや条件の整備には時間が必要である。過大規模校の状況や市全体の状況、両輪での議論をもらいながら学校規模のありようを突き詰めたい。

Q 部活で県大会に優勝するぐらいの実力がある場合に他校区からスポーツ留学できる等の見直しがあれば、生徒の適正化がある程度進むのではないか。

A 部活動に伴い校区外通学している生徒も多々いる。部活動の地域展開でも議論しており、所属は元の中学校のままで、他校やクラブチームで活動もできる。少しずつ条件を整備し、地域展開の枠の中で越境など数字を捉えながら、適正な生徒数を流出させない方法を考慮しつつ展開したい。

Q 資料として、不登校児童の数や本市内のフリースクールの数を、把握しているもので構わないので示してほしい。

A 準備する。

8 主な意見

- 少ないから統合ではなく、他部局と連携して全体的な取組をしていただきたい。都市部だけが増えて、周りの旧5町は10年後地域がなくなってしまう。小規模校でも存続できるようにしてほしい。
- このままでは都市部だけ人が多くなる。学校の統廃合のみの狭い考えではまともなと思う。市役所も横の繋がりを強くすれば、違った考えやできることがあるのではないか。昔は児童が1人でもいたら廃校にしないという考えで、地域でも増やす努力をしてきた。最近、若者は都市部に家を作るため、地域としては死活問題だと思う。それを防ぐには全体で物事を捉えないといけない。
- 統合だけでなく大規模校の見直しも必要である。教室が足りなくなっている現状も踏まえ、大規模校の今後の推移に関する資料が欲しい。
- 市議会議員の構成を見ても中山間地の意見は弱く、多数決では負けてしまう。この会議は非常に大切である。